



## 新町西 再開発

# 不透明で公正性を欠いた都計審が「採択」 「こんなやり方は許せない」…怒りが続々と

七月十五日、マスコミも閉め出して「非公開」という不透明の上に、公平性を欠いて行われた徳島市の都市計画審議会(都計審)。報道されましたが、委員十二人のうち私だけが「反対」、あと十一人は「賛成」で「採択」されました。が、八千百十三通もの意見書さえほとんど審議せず、一日だけで幕を閉じた「やり方」に、「許せない」…など、怒りの声が続々と寄せられています。

## 八千百十三通もの意見書 再開発「反対」六十五%

この「新町西再開発」を審議した都計審への関心が如何に高かったかは、寄せられた意見書の数に表れています。

全部で八千百十三通…これまでの最高が七百四十五通でしたから、その十倍をはるかに超える多さです。しかも六十五%が再開発「反対」で、「賛成」は三十五%しかありません。

## 市民世論と正反対の

## 都計審の賛否…「採択」

最近、市民世論を調査したのは、四国放送「おはようどくしま」のアンケート(六月実施)しかありませんが、結果は再開発「反対」が四十九%もあるのに、「賛成」はわずか十九%しかありません。



ところが都計審の賛否

は「賛成十一」対「反対一」:「採択」。市民世論と正反対の都計審「採択」に疑問や怒りの声が沸き上がっています。

## 公平性を欠いた都計審

## 「賛成」委員十一人の中に

## 副市長や消防局長も

都計審の開会前、市民団体から「審議してほしい」と申入書が提出されました。その申入書は審議会場入り口で、都計審委員にも配布されました。

その中に「都計審の会長(都計審の議長)が原市長の選挙時の責任者であり、また当(新町西再開発)事業の推進団体の長であることは全く公平性を欠き不適切です」と指摘されています。

また、「賛成」委員十一人の中に、この事業を市長の下で推進している(「賛成」しか答えのない)副市



長や消防局長が入っているのも、都計審の公平性を欠く「おかしい話」:非公開で不透明の上に公平性を欠いた都計審が早々と行なった「採択」に、疑問や怒りの声の沸き上がっています。

## 発言時間が「超短い」上に 「あと五分」と制限され

マスコミも閉め出して、五人の傍聴人だけ認め始まった都計審:その時、開始時間からすでに一時間ほど経っていました。まず担当課が、意見書の要約集をはじめとした「資料説明」を一時間ほどかけて行ない、そして休憩:。

資料説明の後、審議が始まったのが一時半に開会してからおよそ二時間後。都計審が終わったのが五時過ぎですから、審議した時間はわずか九十分ほどです。

「十二人の委員、全員発言」で議事が進められ、途中休憩しましたがから、一人あたりに平均すると六七分程度の「超短さ」。

「八千百十三通もの意見書を十二項目に分類した資料」が都計審の数日前に配布されていたので、私は「十二項目の質疑」を準



備していました：が、議長から「短く」と言われましたので、「六項目に絞って」と前置きし質疑を始めました：が、三項目目くらいで「休憩」になり質疑が中断…。

休憩の後、残っている質疑を行なおうと何度か要求し、やっと「五分だけ」という条件付で発言が認められました。

八千百十三通のうち六十五%もが「反対」の意見書で、その「反対」の立場で質疑するのは私だけなのですが、まともな質疑時間も許されず、一日だけのわずかな審議で「採択」してしまつた「やり方」に対し、意見書を書かれた市民のみなさんの姿を思い

# 「丁寧な説明をする」「みせかけの合意づくり」に終始

市長は市長選直後、「説明不足だった：丁寧な説明をする」と表明しました：が、「みせかけの合意づくり」に終始していることが、いろいろと明らかになっています。

## 市長が出席を拒否した「説明会」

### 茶番の実態が明らかに

都計審で「新町西再開発を、いつ諮

浮かべ、大きな憤りを覚えました。

## この都計審が市民にとって「二つの最後」なの…

この都計審は、市民にとって「二つの最後」でした。

一つは、八千百十三通もの「市民の意見書を審議する最後の機会」だったこと。そしてもう一つは「市民が公式に意見を述べられる（意見書など）最後の機会」だったことです。あとは工事着工に向けて事を進めるだけ：だから『推進派「ハードルを越えた』と報道されているんです。

問したのか？」質問しましたら、「七月三日」とのこと。

七月三日

といえは、夜十一時まで、賛成・反対の意見が交わされた市主催の「説明会」が開かれ



## 住民投票や市長リコールの

### 運動が全国各地で

都計審の「採択」後は、知事が同意すれば市長が都市計画決定することになっていきます。

まず知事に同意しないよう求めることが大事ですが、全国の事例を見ると、仮に市長が都市計画決定しても、その後から『住民投票』や『市長リコール』の住民運動が起こっています。

徳島市の場合、市民世論と正反対の都計審採択に、怒りの住民運動が起こるのは必定だと、続々と寄せられる「市民の声」で実感しています。

ていた日。「市長はなぜ出席しないのか」という疑問がいくつも出されましたが、「出席を拒否した」はずですよ。

賛否の意見が

交わされる「説明会」の前に「再開発推進」を決め、都計審へ諮問していたんですから。

説明会で「茶番だ」と指摘されていましたが、まさにその通りで、「市民意見を聞くフリ」をして開いた「茶番の説明会」だったことが明ら



かになった次第です。

## 市長選前の「広報とくしま」と

### 「うりふたつ」の

### 「パンフレット」Q&A

市長選前、全市民に配布した「広報とくしま」と、市長選後の現在も配布している「カラーパンフレット」の『Q&A：市民のみなさんからいただいた様々な質問にお答えします』を見比べてみてください。「うりふたつ」です。



そのことにも、市長の「反省」や「丁寧な説明」が、如何に「ごまかし」であるか：市民に対し、「みせかけの合意づくり」に終始していることが、よく表れています。

## 変えたのは

### 都市計画決定の日程だけ

「市民の意見を聞くフリ」をして、市長選前に示した計画を市民に押しつけているのが「新町西再開発」の特徴：「再開発の音楽ホール」も「眉山の景観を壊す超高層マンション」も「一般用にわずか七十台しかない駐車場」もそのまま：結局、変えたのは、市長選前に行なう予定だった都市計画決定の日程だけです。